

リニア中央新幹線整備を地域振興に活かす伊那谷自治体会議（概要）

1 日 時 平成 30 年 10 月 24 日（水） 午後 4 時 20 分から 6 時まで

2 場 所 シルクホテル 錦繡の間

3 協議事項 I

リニア・モビリティ革命と都市・地域フォーラムとの合同会

(1) 分科会の検討を踏まえた伊那谷自治体会議の取組について

ア まちづくり分科会の報告【まちづくり分科会座長 小澤一郎 氏】

- 自動運転についてプラスの影響は大きいですが、使い方によっては負の影響もある。負の影響を理解し、できるだけ抑制しながらプラスの影響を積極的に生み出す地域づくりが必要。
- 三菱地所からワークスタイルの大きな変化によるオフィス革命が起こるかもしれないとの話があり、第 1 号として和歌山県の白浜で新しいタイプのオフィスを 12 月にオープンさせるとのこと。全国に向けて好条件な立地とサポートする状況がある地域は積極的に選ばれていくことが参考となった。

イ 観光・交通分科会の報告【観光・交通分科会座長 鈴木文彦 氏】

- 自動運転技術が二次交通・三次交通に導入されることにより、観光ルートや観光地の幅が広がるほか、渋滞の解消、一部への人の集中の制御により、利便性の高い観光行動ができる。高齢者の旅行者が増える中で移動困難者のモビリティを改善することにつながる。
- 地域間の連携・交流促進も、自動運転技術の導入で前に進める部分がありそう。ただし、地域そのものに特殊な魅力が無ければ、二次交通をレベルアップしても人が来てくれることにつながらない。ここでなければならぬという資源、ブランドを見つけ、あるいは作って情報発信していくことが必要。

【意見交換】

【出席者】

- ・リニア駅ができる広域交通拠点と中心市街地を結ぶところに、こうしたモビリティの活用を期待しており、社会実験を積み重ねる中で新たなツールの活用が見えてくればよい。
- ・飯田の市街地に加えて伊那谷、長野県全体、隣の県まで効果が及ぶようなリニアの活用が重要。
- ・自動運転技術がこれからどういうステップを踏んでいくのか理解し、リニア開業の 9 年後の姿をイメージした交通スタイルを考えるべき。
- ・伊那谷には、世界に誇れる景観がある。山岳や農村景観、里山を伊那谷全体としてパッケージで世界に出していかなければならない。
- ・キーワードになるのは足。
- ・財政がそれぞれに厳しい中で集中と選択を進めていくため、民間に入ってもらい、重点とすることを決めた上で進めないといけない。

【阿部知事】

- ・大鹿村に行き、大鹿歌舞伎・伊那谷ジオパークを見てきた。民俗学の関係者にとっては聖地であり、オンリーワンの領域をもっと打ち出さないといけない。我々がしっかり見つけて発信し

なければならない。

- ・リニアは国土政策に位置付け、国レベルの視点を入れたいといけない。
- ・民間と一緒に連携することは重要。地域の経済界と一緒にやる部分と、全国や世界レベルの民間の方と提携する問題と両方ある。

ウ 成果の確認

「伊那谷自治体会議」、「リニア・モビリティ革命と都市・地域フォーラム」、「日本都市計画学会低炭素都市づくり自治体支援会議」の3組織による連携・協力事項をとりまとめた。

4 協議事項Ⅱ

リニアバレー構想の実現に向けた具体的取組について

(1) 伊那谷と大都市圏との対流促進について

(2) リニア関連地域振興策の取組実施体制について

【意見交換】

【出席者】

- ・スーパー・メガリージョン構想検討会中間とりまとめの「クリエイティビティと地域の魅力の融合による新たな拠点の誕生」が非常に重要。自治体会議に民間にも入ってもらい、具体的に議論していけるとよい。
- ・民間は経済界を含め、どうしてもなくてはならない存在であり、協議に入れていただくことを提案したい。
- ・アンケートで効果的な魅力発信の方法や、どこをターゲットに取り組んでいいかわからないということなので、そういう点を第三者の目で見てもらい、自治体に進めてもらいたいことを具体的に提案してもらった方が進んでいくと思う。
- ・魅力発信施設を始めとして、伊那谷、県全体の発信をどうしていくかということは、関係者の皆さんに入ってください検討しなければならない。民間や関係者に入ってください、今後の取組体制を決めていただきたい。
- ・この自治体会議事務局のリニア整備推進局はハード系であり、魅力発信はソフト系の話も含めてだと思えるので、そういった部署にも積極的に関わっていただくような組織体制を県で考えていただきたい。
- ・下伊那郡は非常に広大であるので、魅力発信も広域で考えなければと思う。
- ・民間の皆さんに入ってください、共通認識を持つことは大切なこと。関心が高まらないとまちづくりも進まない。

【阿部知事】

- ・伊那谷自治体会議の検討の在り方や具体的な事業の進め方を次のステップに進める段階だと思う。
- ・伊那谷地域の文化・景観、飯田市の航空宇宙産業、伊那市の自動運転・ドローン、駒ヶ根のJ O C Aの現状を踏まえ、もう1回検証し、伊那谷としてのビジョンと情報発信を考える必要がある。
- ・実施体制は次のステップに進むことを前提として、民間の皆さんと一緒に考えることは必須だと思う。
- ・事務局のあり方も抜本的にレベルアップできるように、しっかり一緒に考えたい。